

オーケストラ シンフォニカ タケイ

第八十五回

定期演奏会

昭和60年4月8日(月) 6:30p.m.

第一生命ホール



LXXXV GRAN CONCERTO
della
ORCHESTRA SINFONICA 'TAKEI'

Lunedì 8 Aprile 1985 alle ore 18:30

DAIICHI SEIMEI HALL

INIZIATORI ORCHESTRA SINFONICA TAKEI
SOTTO GLI AUSPICI ISTITUTO MUSICALE ITALO-GIAPPONESE

主催 オーケストラ シンフォニカ タケイ

後援 日 伊 音 楽 協 会

PROGRAMMA

PART I° Orchestra Sinfonica "TAKE" diretto dal MURAO SUGITA

オルケストラ シンフォニカ "タケイ" 演奏

指揮 杉田村雄

1. Sinfonia RISORGIMENTO ITALIANO M.G. Anelli Trigolo-TAKANO
序曲 イタリーの復活 アネルリ・トリゴロ作 高野吉司 編曲
2. Intermezzo from the OPERA GOESCAS Enrique Goescas-TAKANO
間奏曲 オペラ ゴエスカスより アンリック・ゴエスカス作 高野吉司 編曲
3. TEMA CON VARIAZIONI G. Sirlen Milanesi
主題と変奏 シルレン・ミラネージ
TEMA
I. VARIAZIONE 第一変奏
II. VARIAZIONE 第二変奏
III. VARIAZIONE 第三変奏
CHUSA DELLA VARIAZIONE 変奏の終局

PART II° PREMIO "TAKEI" 1984 Composizione per chitarra

1984年度武井賞発表 ギター演奏 鈴木 豊

PAESÀGGIO III for guitar Fujio Okabe

パエザッジオ III ギターの為の

岡部富士夫

PART III° Orchestra Sinfonica "TAKEI" diretto dal MURAO SUGITA

オルケストラ シンフォニカ "タケイ" 演奏

指揮 杉田村雄

1. Suite RUSSIA op. 3 SEIICHI SUZUKI
組曲 露西亞 作品3番 鈴木静一
No.1 Military March 軍隊行進曲
No.2 Russian Mazurka マズルカ
No.3 Children and Train 子供と汽車
2. Rhapsody Japanese folk song for fluto and Mandolin orchestra KOJI UNO
日本民謡ラプソディ フルートとマンドリンオーケストラの為の 宇野浩二
(山中節・安来節・こきりこ節・下津井節・八木節)
3. Suite TSUGARU URATO WATANAB-TAKANO
組曲 津軽 渡辺浦人 作曲・高野吉司 編曲
a. Song of mountain district 山唄
b. Song of mountain and lake 山と湖の唄
c. Festival NEBUTA ねぶたまつり
4. Componimento dal M.S. TAKEI
武井守成作品集
a. TRAMONTO DELLA PRIMAVERA op 15
晩春 作品15
b. NOTTE DI FESTA op. 34
春祭りの夜 作品34

曲 目 解 説

J. M. U. 副 会 長
O. S. T. 理 事 長 杉 田 村 雄
日伊音楽協会理事
武 井 賞 委 員

序 曲 イタリアの復活 アネルリ・トリゴロー高野吉司編曲

トリゴローは1876年イタリア北西部のザルッツォに生れザルッツォの音楽学校を出てイタリアプレクトラム界の黄金時代といはれた1910～20の間に大いに活躍し、1926年没した。当日ザルッツォの音楽学校を主宰、並に講師をつとめる傍ら、市民音楽隊、オーケストラ合唱団等の指揮者として立ちながらトリノの音楽雑誌イル・マンドリーノの代表者としても数々の作品を発表している。

本品はジュゼッペ・アネルリで母方の姓をとりジュゼッペ・トリゴローのペンネームで、シンフォニア、ドラマティカ、シンフォニア・ロマンティカを始め5つのシンフォニア其他を残して、アネルリ風とも呼ばれるプレクトラム音楽のシンフォニア（序曲、序楽とも呼ばれている）の定型をきづきあげている。この曲は（1911年イル・マンドリーノ作曲コンクールに1位金杯を受賞して居り）彼の代表的作品として古くから我国にも知られ1922年初演以来度々各地の演奏会のプログラムにのり、プレクトラム音楽の数少ない名作の一つに数へられている。

歌劇「ゴエスカス」の間奏曲 アンリック・グラナドスー高野吉司編曲

エンリック・グラナドス・イ・カンピナは1867年7月27日にスペイン・カタロニアのレリダに生れた。

1884年、彼の17才の時にマドリッドの音楽院に入り、3年の在学中にピアノをブホルに作曲をフェリペ・ペドレルについて学んだ。彼の出現はスペイン楽界に取っては暗夜の光明であって、人々は彼を「スペインのショパン」と呼び、「驚くべき色彩家」と称へ「気禀高き作家」と唄った。従って1916年アメリカ・ニューヨークでの上演後スペインに帰国の途上大西洋上でドイツ潜航艇に雷撃され乗船のサセックス号と運命を共にしたのであった。彼の死はスペインのみならず、世界の楽人から痛嘆された。スペイン音楽に於ける彼の地位はロシア音楽に於けるチャイコフスキーに髣髴（ホフツ）たるものがある。彼によりロシア的なムーズブルグスキーやリムスキー・コルサコフがある様に、之によりスペイン的なアルベニス、やファリアがあるが、然し最初に世界的に知られた近代スペイン音楽は実に彼であったのである。

歌劇「ゴエスカス」か彼の名を不朽ならしめたものであることは言うまでもない。此曲が最初に着想されたのは、彼が22才の頃で、これ等の断片は1909年に組曲とされ、1914年頃に歌劇の形体を備えた。歌詞はペリケーによって書かれたが、この歌劇の他と趣を異にする点は、曲譜に従って詩が附けられたことである。「ゴエスカス」はたとえ劇として上演されなくなる時を予想するものはあってもその音楽の運命に暗影を見出すものはないであろうし、殊にこの間奏曲に到っては何人も永久不滅を確信するのであろう。先に O, S, T, は菅原明朗氏の編曲で発表したが高野氏が再編曲したものを演奏する。

主題と変奏曲 G・シルレン・ミラネージ作曲

主題 第一変奏—アルレグレット 第二変奏—アンダンティーノ 第三変奏—アルレグロ 終曲

ジュゼッペ・ミラネージは新イタリア楽派のイルデブランド・ピツェッティの門より出た新進作曲家で当時既に管弦系の組曲、大オルガン及弦楽合奏附二重唱「沈魂祭」二つの弦楽四重奏、ヴァイオリンソナタ等を書いて居たが、其後ローマのアカデミア・フィラルモニカのコンクールに弦楽五重奏曲で一等賞を獲得し、一層名声を博するに到った。プレクトラム楽器の為には、或時は本名を、或時はシルレン・デルラ・ランカと云うペンネームを用ひて無伴奏マンドリン独奏曲「サラバンドとフーガ」を初めとして数曲を公にして居る。此曲に於ても彼は本名と仮名とを結合したジー・シルレン・ミラネージを用いている。彼がピツェッティの薫陶を受けたことが此曲をして非常に特殊な手法を採用させて居り、又「サラバンドとフーガ」を見るなら彼のプレクトラム楽器に対する理解が非常に深いものであることがわかる。

此曲の第二変奏に使用されたポリフォニーの如きは或はプレクトラム楽器には不適當なものであるかも知れないが、曲申到る所に見出される革新的な構想は他の追従を許さないものである。

1984年度（第25回）武井賞授賞作品パエザッジオⅢ 岡部富士夫作曲

「武井賞」は日本のギター之父といはれて、ギターの歴史に大きな功績を残された故武井守成氏の名を冠した賞で優秀なギター作品に贈られるものである。

武井賞委員会

宇田川禎一、小胎剛、小原安正（会長）、兼古隆雄、小山文雄、今野有二、清水環（委員長）、鈴木豊、杉田村雄、津田昭治、芳志戸幹雄、山口昭三、吉田光三

1984年度（第25回）武井賞は岡部富士夫作「パエザッジオⅢ」に贈られて、其授賞曲発表と記念演奏会は去る3月8日（金）夜、新宿セブシティホールで行はれましたが、故武井会長の主宰する本オーケストラの定期演奏会でも発表される習はしですので本日ここで演奏されます。

岡部富士夫氏略歴

1947年生れ、1970年山形大学特設音楽科卒。作曲を熊田為宏氏、指揮を前田幸市郎氏に師事。

現在、郡山女子大学短期大学部音楽科助教授。日本作曲家協議会会員。演劇集団「微風」専属作曲家。

組 曲 露 西 亞（作品第3番） 鈴木静一作曲

I 軍隊行進曲（イルクーツクの石畳を行く軍隊隊） II マズルカ（農民の踊） III 小狂想曲（汽車と子供）

作者は北海道、小樽の出身で、大正11年組曲「山の印象」を処女作として発表し、爾來合奏曲の創作に意欲的な活動をされて、昭和55年5月他界されるまで斯楽のために多大の貢献をされた方で、O. S. T. 主催作曲コンクールにも応募されて、昭和5年に「空」が翌3年には「北夷」が入賞されております。本曲は高野さんが東京プレクトラムにおられたときに写譜

し所蔵されていたスコアをみてそのスコアに作者が昭和44年3月赤鉛筆にて補筆されたもので、当初発表の改訂版ともいえるものです。

本曲は昭和9年7月東京プレクトラム、ソサエティが初演し作者の言葉として次のように書かれています。

I 軍隊行進曲（イルクーツクの石畳を行く軍隊隊）

是はシベリアの広野を行く軍隊の描写である。灰色の覆いかぶさる様な空の下を行く一群の兵士、荒野の旅の単調と疲労と困憊、俄かに勇しい喇叭の音が起ると流石軍人の勇ましい意識、暫時は活発な歩調が揃うがそれも長くはない。喇叭の音が絶えると再び前の物頼気な気分が戻って来て次第に遠ざかり行く。

II マズルカ（農民の踊り）

帝政ロシアのシベリアは農民の殆んど農奴であり、苦しい、貧しい生活でもくもくと農作にはげまされ搾取され、細々とした暮してある。村の酒場で強烈なウオッカの一杯に日頃の憂さを情らし、バラライカ、マンドリン、ギターの音か起れば踊り好きな者共は自然に集まり来り老いも若きも男も女も日頃のことは全てを忘れて激しく楽しく踊り明かすのであった。

III 小狂想曲（汽車と子供）

シベリア鉄道は果てしない広野に敷かれた一本のレール、遙か彼方に小さな黒点と見えるものが煙が見え出し次第次第に大きく煙をはきながら走る列車の姿、ポッポポッポと音も大きく聞えて来る。やがて駅に近づく列車。子供はこの汽車を見に来るのが好きで、待って居た子供は汽車とカケッコをして喜び合う、勿論寒村の駅には駅舎がポツンとあるだけでプラットフォームはない。給水で機関車は客車と切離なされる。1、2時停車するのはあたり前である。村人は乗客目当に弁当、自作のパン、果物を売り歩く子供は客車の窓に、オネダリの手を差出して居る。1日何回か数少ない列車の到着に村は其時だけは賑やかになる。

日本民謡ラブソディ（フルートとマンドリンオーケストラの為の）

宇野浩二作曲

宇野さんはO.S.T.では昭和42年3月の第67回定期演奏会以来のメンバーで毎年春、第一生命ホールで開催するO.S.T.の定期演奏会には必ず出演その美しい音色はオーケストラを引立ててなくてはならない重要なメンバーとなっている。勿論定期演奏会以外にも青森での松風塾主催の演奏会にも毎回出演、特にO.S.T.がドイツ・マンドリン連盟の招きで、ドイツ・マンドリン連盟主催の Zupfmusik 74 Berlin（1974年ベルリンでの音楽祭）に出演併せてドイツ・ヘルネ市、レヒベルクハウゼン市にも演奏旅行、ついで国際交流基金を得てイタリア・ローマ日本文化会館主催のO.S.T.演奏会（1974年5月）にも出演美しいフルートで好評を拍した。其後関西の川口優和指揮するマンドリン・クラブ演奏会でドニゼッティのフルート・コンチェルトを協演したことがある。

昨年、フルート、オーボエ、ヴァイオリン、ピアノのアンサンブルで石川、岡山、富山、島根と演奏旅行をされて、其土地土地の民謡を演奏し、その美しさが深く印象に残って居られ、帰られてからその民謡を骨子とした日本民謡ラブソディ（フルートとマンドリンオーケストラの為の）を作曲されたからO.S.T.と協演しないかと楽譜を渡されたのである。

曲は初づ山小節（石川）、次に安来節（島根）、こきりこ節（富山）、下津井節（岡山）の順で最後に八木節を加へた構成で狂詩曲風に作曲され、フルートの活躍が目覚ましく美しい曲に今からO.S.T.との協演が楽しみである。

楽歴、1951年、東京音楽学校（現芸大）器楽科卒業。岡村雅雄、奥好寛、森正、大畑保、セヴェリーノ・ガゼローニ、高田三郎の諸氏に師事。1951～58年近衛交響楽団、ABC交響楽団の首席フルート奏者。1961年英字紙第3回音楽舞踊批評家賞受賞。1962～63年イタリア政府留学生としてローマ・サンタ・チェチーリア音楽院に留学。1962、63、66年リサイタル等開催。1962、66、71年イタリア文化会館主催リサイタル等に出演。1974～1981年、バロックと現代フルートによるコンサート8回開催。1981年、秋田市、1983年、木更津市、1983、84年、東京文化会館にてリサイタル。昭和音楽大学短期大学部教授。フェリス学院短期大学音楽科講師。日伊音楽協会常務理事。

組曲「津軽」

渡辺浦人作曲

高野吉司編曲

(イ) 山 唄

(ロ) 山と湖の唄

(ハ) ねぶたまつり

本曲は管9本、弦5、ハーブとピアノを加え更に尺八と三味線を主奏とした大編成で書かれてあり、尺八、三味線を使ってそのまゝ合奏曲に編曲するのも意味がなく、さりとてメリ、ハリのきいたこぶしの多い日本楽器の表現は不向きなので、民謡と祭り囃子を素材とした音詩としてマンドリン合奏曲につくりあげました。津軽の山唄はめづらしく三絃の影響を受けない純粹の曲調をもつ一抹の淋しさを漂わせています。ねぶた祭りも二通りあり、青森のねぶたは戦勝の喜びを謳い、弘前では出陣の無事への祈りをうたっています。

楽歴・渡辺浦人東京生れ、東京芸大を卒業。昭和16年交響組曲「野人」で文部大臣賞を受賞、オペラ「大伴家持」で日本文芸協会賞。「暁の日本太鼓」で毎日新聞音楽推薦賞。ほか多数の受賞作品があり、日本を代表する作曲家として現在も活躍されて居り昭和56年には勲四等旭日小綬賞を授与されて居られます。

武井守成・作品 晩春、春祭の夜

武井守成氏（1890—1949）は日本に於けるマンドリン・ギター音楽の最初の功績多い推進者として大きな足跡を残した。氏は1915年にO.S.T.を創立して以来死に至るまで不断の熱意と効果的な実行力と先覚者的な遠見によってマ・ギ音楽の進展に尽して倦む事がなかった。功績中最も大きいもの一つはマンドリン・ギター曲の作曲の唱導であり、自らも多数の曲を作曲し、春、秋のO.S.T.の定期演奏会で発表している。氏は日本人でないと言えない、又日本人でないと言えない様な、日本人の心、感情、趣味を生かすと同時に日本人の持つ技術で演奏し得る様な曲であった、114の作曲中ギター独奏は58、マンドリン合奏曲40、其他である。昨年の84回定演は創立70周年記念（故武井会長没後35年を追慕して）でもあり、ギター曲、マンドリン・合奏曲も代表的なものを選んで出しましたが、本年は小品ですが春らしい味はいいものを選びました。

晩春作品15番 大正14年4月3日の作者の日記に「神楽の和琴のリズムを骨子をして暮れ行く春の悲哀をうつせるもの」とあります。春祭の夜作品34番 昭和5年の作で作者の言葉「春の祭礼の1夜、家の中であって祭とは無関心に物思いに沈む一人の若人を書いたもの」とあります。

手工絃楽器

S. Watanabe

マンドリン・ギター 他低音楽器
絃楽器全般製作修理

渡辺絃楽器研究所

〒114 北区滝野川 5-43-5 TEL (916)8528(代)-9

日本の誇る世界の名器

河野賢手工ギター

〒171 東京都豊島区西池袋 5-27-20 ☎ 03 (973) 0927

山本ミュージックコーナー

〒164 中野区東中野 1-43-7 東中野駅東南口下車3分 TEL (363) 9893

取扱品目

- ★手工マンドリン・ギター各種
 - ★各社マンドリン・ギター
 - ★マンドリン・ギター用弦及附属
- Y.M.C. 音楽教室の各講師が選んだ楽器を責任を持っておすすめ致します。各団体の方々に割引販売致します。
どうぞ御用命下さいませ。

Y.M.C. 音楽教室

- マンドリン教室
平山 英三郎 先生
高久 倫子 先生
- ギター教室
平山 英三郎 先生 (ABC順)

O.S.T. 理事長 杉田村雄 常任理事 高野吉司 高田三九三
理事 河合博 荘村正人 亀井武綱 伴峰夫 (会計)
音楽委員 肥沼成明 岡田茂 岩片順子 筒井隆介 宮崎泰行 石黒不二夫

指揮 杉田村雄 コンサートマスター 高野吉司
第1マンドリン 高野吉司 本間輝樹 秋元興光
肥沼成明 新井裕久
第2マンドリン 岡田茂 市毛利喜夫 幸田禎治
マンドラコントラト 宮崎泰行
マンドラ 岩片順子 石井栄一 藤田正美
田中倭文子
ギター 今津章 山本雅三 嘉瀬敏
筒井隆介 宮本紀子 城所敏夫

リュート 岩織淳子
マンドチェロ 平山英三郎 宮崎泰行
マンドローネ 高田三九三 伴峰夫
コントラバス 石黒不二夫
フルート 宇野浩二
クラリネット 大塚精治
ピッコロ 梅山秀一
打楽器 松原竜一

楽しく学べる
全音マンドリン独習
出版部編 菊倍判 700円

オデルマンドリン教則本1.2
伊藤翁介編 菊倍判 1=850円 2=800円

ムニエル奏法による
マンドリン教則本
出版部編 菊倍判 1,500円

全音楽譜出版社 東京都新宿区東五軒町25
電話(269)0121(代)

加除式法規書出版
中央法規出版株式会社

本社 〒151 東京都渋谷区代々木2-27-4 電話(379)3861(代表)
営業所 札幌・仙台・岐阜・大阪・広島・福岡



落合忠男手工マンドリン

低音楽器 総発売元

服部 正先生
巨匠 中野二郎先生 推薦
鈴木静一先生
高橋 功先生

カラチェマンドリン
ヤマハ特約店 野口 実手工マンドリン総発売元

いけぶくろ楽器株式会社

東京都豊島区西池袋3-30-6 TEL(986)6568~9



Palace

MANDOLINS & MANDOLAS
MADE IN ITALY

株式会社 **ヤマ楽器**
〒103 東京都中央区東日本橋 1-1-8
TEL(03)861-1351(代表)